

組合区域五千町歩ノ内二千余町歩ノ地区民ノ反対アル理由トシテ、内部ノ人  
和ヲ得ル為メ、且ツ対岸ニ因スル関係等十分慎重ニ考慮ノ為メ今回提案セザリ  
シ。

トノ御声明ヲ聞クハ関係郡村民ノ大ニ遺憾トスル所ニ御座候。由来大事業ニハ従  
来ヨリ多少ノ反対ハ免ガレザル所ニシテ北館用水事業ノ如キハ多年ノ早苦ヲ除ク  
ノミナラス、泄水費用ノ軽減及ビ塩害ヲ防止スル最大最良ノ事業ニシテ、反対側  
ノ称スル第十堰以下ノ使用水量ハ僅ニ二百個ニ過キザルニ、塩害ヲ除庄スベキ水  
量ノ五百個以上ヲ徒ラニ海面ニ放流スルガ如キハ、蓄水池下湖ハザルベカラ  
ズ。況ンヤ、一部ノ反対ナルモノヲ詮索スルニ、利己観念ト極端ナル姑息思想ト  
ヨリ来レモノニ外ナラス、將來此事業ニシテ実現セバ、反対者ノ迷惑ハ積然ト  
シテ氷解シ、欲等謳歌スルニ至ルベキハ毫毛疑ヲ容レザル所トス。  
政府ハ三十ヶ年計画ヲ以テ十六億六千五百万円ノ巨額ノ費用ヲ投ジ、食糧政策上  
耕地ノ整理大河ノ流域ニ亘ル用排水ノ導ヲ固管トセラレントスル現今ノ状況ニ鑑  
ミ、食糧問題ニ大密接ノ関係ヲ有スル本問題ニ就テ一日モ早く閣下ノ御明瞭ヲ仰  
半御施設ヲ切望セザルヲ得ズ。

前県会ニ於ケル諮問案可決ノ趣旨ニ基カレ、実施測量ヲ行ルルニ際シテハ一部組  
合中ノ反対ヲ顧慮セザル、事ナク、断然本事業ニ対スル測量費ノ御提案アリ度一  
同懇願ノ至リニ耐ヘズ。  
以上ノ趣旨御採納相仰度関係郡村民ヲ代表シ謹テ陳情仕候 敬白  
昭和十五年十二月

六) 旧吉野川潮止樋門

今切川水系は、潮止水門の竣工により一応解決を見たが、旧吉野川沿岸  
の撫養町・大津村・松茂村・北島村などは速やかに第二期工事として旧吉  
野川に水門の建設を促進方要望切なるものがあり、県において第二期工  
事を急速に進めるため努力し、昭和十二年(一九三七)一月二日付で農林大臣  
宛申請書を提出、三月二四日付で構造及び基礎工法漁道など一部附帯条件  
をつけて認可されたのである。

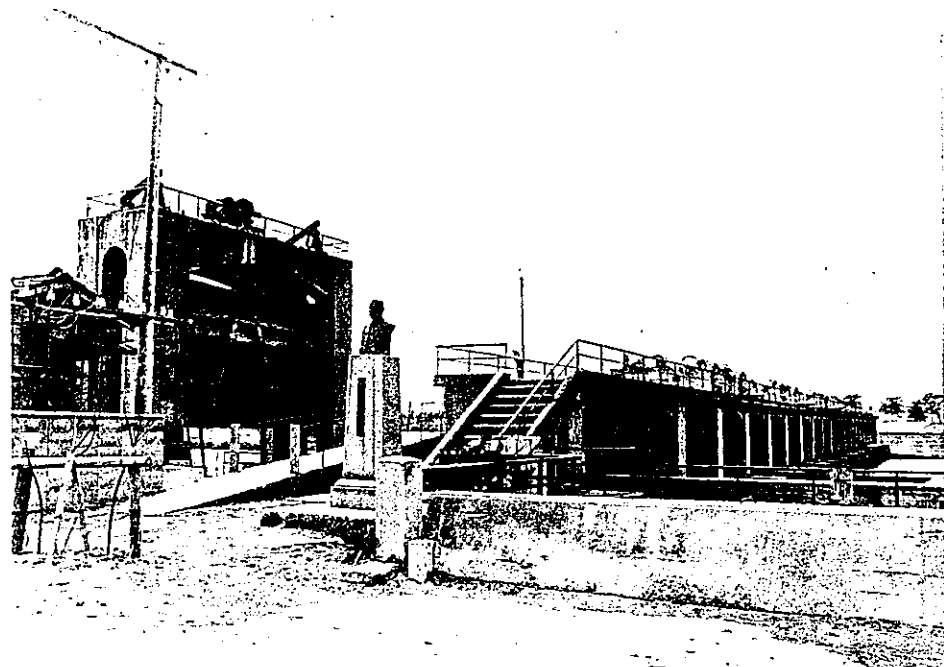
計画の要旨としては先に竣工した今切川潮止水門と目的を同じくするも  
ので第一期工事の竣工によって状況は著しく良好となったが、第二期工事  
により両河川の水位の完全調節により常時豊富な用水の取入れが出来るこ  
ととなり、三ツ合堰において繰り返された紛争は完全に跡をたつたのであ  
る。この目的達成のため旧吉野川潮止水門の位置としては、松茂村向喜来  
渡船場付近に一八門を設置、洪水・平時時を問わず水位の調節を行うこと  
もに船舶の運行に支障のないよう船通し並びに左右両岸に漁道を設置する  
こととし、なお鍋川に船通しを設け、今切川より旧吉野川への塩水の逆流  
を防止する計画を立てた。

最終総事業費 一三五六万七八三七円  
負担内訳

Table with 2 columns: Category (国, 県, 費, 地元負担金) and Amount (六七三万四五〇八円五〇銭, 三一七万七三二四円五五銭, 三六五万五九七五円九五銭)

本工事は三ヶ年の計画で発足したが、時あたかも支那事変はつ発による  
物価騰貴のため、予算の範囲内で出来得る計画に縮小された。かたわら事  
変は進展し、資材の払底工事費の増額など工事の進行困難をさわるる半面  
食糧増産はいよいよ切実となり、当時松茂村に建設中の軍事施設が本事業  
と密接な関係があり、海軍省の認むる所により、昭和十四年度に使用鋼材  
の配給証書の交付を受け、ようやく左岸の六門及び漁道・護岸の工事を株  
式会社岡田組と随意契約により施行、昭和十六年六月に完工、引き続き  
残部工事を岡田組と契約するに当たり、設計額と岡田組の見積額との差額  
が一〇〇、〇〇〇円に達し、交渉の結果とあえず鍋川船通工の約五〇、  
〇〇〇円を流用することとし、残工事の契約を締結したが、鍋川船通工の  
予算がなくなったので、県事案において五万円を増額議決を行い、この  
歳入として地元寄付金の形式をとり、その全額を松茂村の第一二代三木与  
吉郎が寄付することとなったのである。

以上の経過により工事請負契約並びに予算に関しては一応終了し、あと  
は工事の進捗に努力するだけとなったのであるが、時あたかも大東亜  
戦争となり、戦局ますます急を告げ、労務者の大部分を徴用応募のため  
に失い、且つ各種資材はいよいよ入手難となり、昭和二〇年(一九四五)に至り  
戦局急迫のため工事は停止した。大都市は相ついで空襲を受け、同年六  
月二六日松茂航空隊空襲の余波を受けて現場付近に爆弾が落下し、現場事  
務所・材料置場などを破壊し、工事に用いた各種器具その他資材は四散し、次い  
で七月四日徳島市焼燼によって製作中の捲揚機の大部分は焼失したのであ



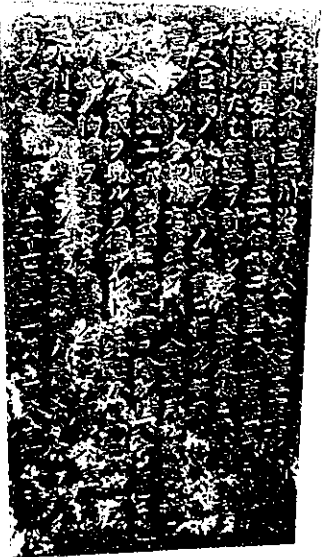
旧吉野川潮止樋門 (向喜来ダム・昭和47年撮影)

る。このような困難な状態で終戦を迎え、食糧事情はいよいよ急迫した。本  
工事を速やかに完成し食糧増産に寄与するため、事業費の残額により実際  
施行し得られる工事の実施計画を立てたのである。

昭和二二年度になって本工事は公共事業に認定され、従来の継続事業は  
打ち切りとなり、毎年度ごとの予算認定により待望久しい本事業は昭和二  
四年、一二ヶ年の歳月と幾多の困難を経て完成を見るに至ったのである。  
(「吉野川土地改良区創立十周年記念誌」より)

1 各工事の位置・構造の設計々画

- (1) 潮止水門
① 設計位置
② 構造の大きさ
潮止水門全長(船通・魚道・水門共)一一・二二・二五・五。水門は鉄筋混  
凝土造り一八門。一門の幅五・五、通水幅四・五。水門柱の厚さ一・五、幅八・六  
。一門の底面上の高さ八・五、水門基礎幅一・〇。前面に長さ九・六の  
鉄矢板を打ち込み、淡水を浸透させる。船通しは潮止水門の最右端に設置  
し、その構造は鉄筋混泥土造りとし、門扉は鉄製「ローラー」付で電動式  
及び手動式の両捲揚装置を施し、作用の完全を期す。船通しの総長は三三



旧吉野川潮止樋門竣工の碑文 (昭和24年) <千代田恒男撮影>

・五尉、有効長さ二五尉、有効幅七尉、干潮時の水深二・七一尉。  
なおまた、夜間水門及び船通しの管理の必要上、船通し及び水門の各部に点灯設備する。魚道は左右両岸に三ヶ所設置する。右岸魚道幅員五・五尉、左岸魚道幅員六・〇三尉、勾配三分之一とする。右岸魚道は船通しに接して構築し、可動式階段となし、鉄蛇籠粗架並びに制水柱の設備をする。左岸魚道は左岸護岸に接して設け、固定の階段工とする。上流面及び魚梯階段中に制水柱の設備をなし、両側に鉄線蛇籠を設備し、魚族の遡河にする。

(2) 附帯工

鍋川舟通しは旧吉野川筋に近き丸須橋下流六〇尉の地点に、有効幅員七尉の舟通しを設置する。

第十二世三木与吉郎公傳

板野郡東端吉野川沿岸ノ水田古來塩害甚シ。松茂村豪家故實族院議員正六位勲二等三木与吉郎君夙ニ救済ヲ任トシ、だむ築造ヲ計画シテ農政府及農ニ陳情シ、奔走多年又巨萬ノ私財ヲ此ノ事業ニ捐ツル等、君ノ熱誠ハ遂ニ当局ヲ動シ、今切川だむ先ツ成リ、今歲十月松茂だむ亦工ヲ終ヘ、農地二千町歩茲ニ短草ヲ除ケリ。不幸君已ニ逝キ、之ヲ完成ヲ見ルヲ得ザレドモ、先賢ノ偉功赫光ヲ敬テ、此ノ胸像ヲ建設シテ遺徳ノ不朽ヲ謀ルハ吉野川普通水利組合ノ奉ニシテ農民感恩ノ表徴ナリ。依テ其ノ行実ヲ略叙ス。

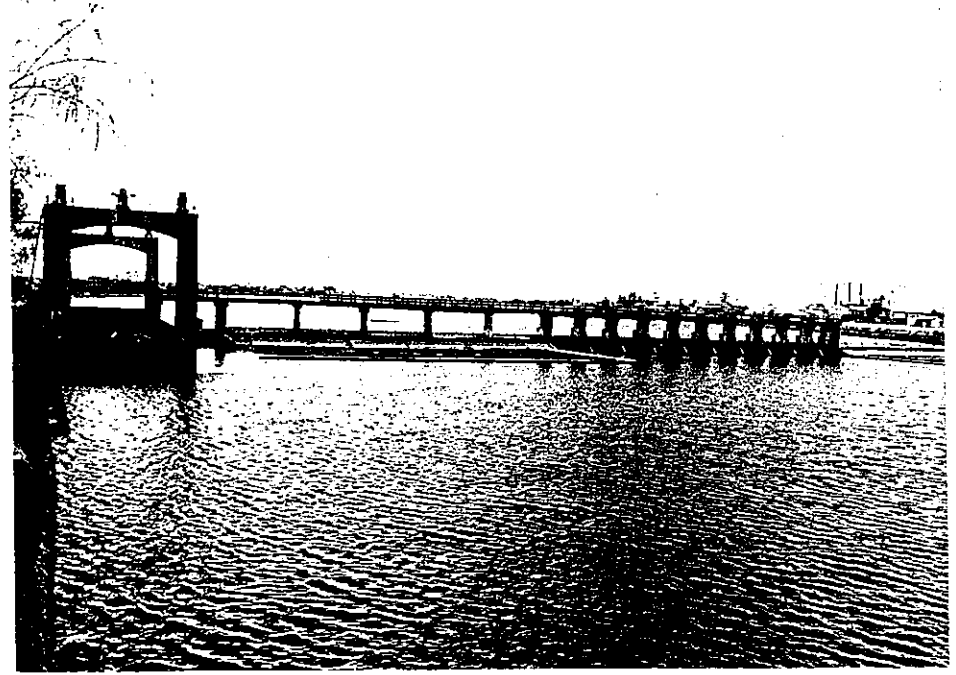
昭和二十四年十一月 岡本由撰併書

(4) 今切川潮止樋門

今切川ダムは昭和一〇年(即ち四月着工、一ヶ年有るの歳月と工費三三〇、〇〇〇円を費し、同一一年八月に竣工、二月三日竣工式典を挙行。従来豪雨によるはん濫潮水の逆流による塩害のため苦しんでいた北島及び応神村の一部右岸の幹線水路を通じ塩害・干害は免れた。

1 工事の概要

潮止堰堤は溢流部・水門・魚道及び舟通しの四部よりなり、その全長は一八〇尉で堰堤の標高は一・八九五尉。止水工には堰堤の前面下に長一〇尉及び七尉の鉄矢板を用い、溢流部は粗石積詰の固定堰であり、鉄筋コンクリートである。水門の大きさは三・八尉のもの十連である。魚道は左右



今切川潮止樋門(昭和47年撮影)

両岸に設け、その幅を各五・五尉とし、右岸のものは舟通しに接して設けその上半を可動式とし魚族の遡上を容易にした。なお、魚道には蛇籠、制水柱及び「パツフルビヤ」などを設置。舟通しは右岸に沿わせ、その内法は長さ三六・六尉、幅七尉。干潮時水深二・七尉。水門及び舟通しの門扉は電動及び手動両設備をなす。用水取入口は堰堤の上流六〇尉の右岸に統一し、平均毎秒二・〇立方尺以下する幹線水路を新設。この延長一、〇五九尉、水路幅は上幅九・二尉、底幅六・〇尉、上幅八・六尉、底幅五・四尉の二区とし共に深さ一・六尉。

2 建設費

総事業費	三二〇、〇〇〇円
内	
国庫補助金	九〇、〇〇〇円
県費補助金	二七、〇〇〇円
地元負担金	六三、〇〇〇円
寄付金	一三〇、〇〇〇円(東邦人造織株式会社)
本工事において使用した主なる材料の数量	
人 夫	三九、一〇八人
セメント	二五、九〇八袋
砥石板(護岸)	四、三二六平方尺
砥詰石	七七四立方尺

(3) 三ツ合堰

旧吉野川下流にある北島町高房三ツ合堰は、下板下流水田すなわち柳江・大津・松茂・川内・応神村に対する農業用水を配分している大切なせきで昔はこのせきで旧吉野川の水流を分離して旧吉野川の方七、今切川の方三の割合に分けていた。しかし今切川は旧吉野川と異って川底も低く今切川へ次第と多くの水量が流れ、干天続きのころにはこのせきを両川関係の農民が監視の目を光らせ絶えず流血の水争いがしばしば起こった。せきの巾は一四尉位の舟通しが開けられていたがそれが次第と二〇尉位に広がり干潮時には今切川の方三〇、四〇程度の落差が出来て、平水量以下の水が今

切川へ落ちる。旧吉野川が毎秒一七立方尺の濁水のとときは、今切川への一四・一五立方尺、旧吉野川へはわずかに二・八立方尺しか流れないから、これら関係農民の苦難も十分うかがえる。

この様な状態で下流関係の旧大津・松茂村の農民は干ばつ時には三ツ合堰へ石を入れたり、土俵を積んでせき止め紛争が度々起っている。

(史料 九)

- 高房三ツ合北川口御普請ニ付御郡代様御見分  
元治元年甲子年二月廿八日より廿四日迄房屋両家に御逗留
- 高房三ツ合北川口御普請に付御郡代様御見分  
高 木 直 蔵 様
- 庄 野 太 郎 衛 様
- 三 間 才 兵 衛 様
- 御 積 方
- 伊 沢 速 蔵 様
- 秋 田 順 吉 様
- 御 手 代
- 同 心 下 才 判 式 人 宛
- 御 家 来 六 人
- 組 頭 庄 屋
- 賀 川 盛 之 助 殿
- 橋 本 為 太 郎 殿
- 坂 東 然 之 丞 殿
- 田 淵 具 高 治 殿
- 円 藤 岩 三 郎 殿
- 御 家 来 六 人
- 但、井組三拾五ヶ村役人頭百姓新田才判人百姓右七日の間御見分齋へ罷出、中市場渡し下手松原より新喜来向ひ古江口故北新喜来渡し場迄掘切の様方圖相立候得共、右新喜来向ひは人家へ相阻るに付、故障申出候付而者此場廻相止り、右下手へ式ヶ所程方圖相立候得共井組船履不仕、弥三ツ合北川口掘広げて御普請に相下候り、三ツ合上手より向出張掘掘広げ、御普請高房作場渡し迄之間掘広げに三月二十七日より四月四日迄八日の間井組三拾五ヶ村より日々五、六百人程宛出役仕水面迄掘付、水中掘渡への儀共請負に相渡す、逆渡戸買添し、御普請の儀御上御手御普請之旨仰付、四月中旬より御取懸り。
- 御奉行様御逗留中諸雑費長岸村親普請に而度し参会席料共。
- 一 銀札 六百目 井組惣町合七百拾壹町六反壹畝式拾八歩七厘八毛壹絲二割
- 三拾四町八反式畝拾五歩
- 一式百九拾式畝六分五厘 住吉新田割賦当り指出す、四月廿二日高房村与頭出張先へ持参仕候。
- 井組惣町七百拾壹町六反壹畝廿八歩七厘八毛壹絲二割
- 一人夫八千人

(一) 町内の道路

終戦後徳島海軍航空隊跡が開拓され、開拓計画の一つとして幅四・五尺六八路線におよぶ新しい農道が開発された。これは後に町道の主要な部門を形成することになった。

1 国道一―号線

昭和二五年(二五)より長原港線の交差点と大津境までを国道一―号線として建設を始め、昭和二七年一月四日に完成と同時に鯛浜と長原港線の交差点までの軍用道路と合わせて一級国道一―号線に指定された。その結果、鯛浜と大津境までの大動脈が誕生したわけである。また昭和三〇年には完全舗装が終了した。

現在では一般国道一―号線と名称も変わり、交通量も年ごとに増大し、産業・経済の発展に大きな役割りを果たしている。

国道一―号線における地点別交通量(二四時間中)

年度	地点	松茂町広島	鳴門市大津町	北島町老門
昭和三年		一、八六八台		
三七年		四、一八八台		
四〇年		八、二二九台		
四三年			一三、三五七台	一五、七二〇台
四六年			一八、〇〇二台	二〇、二五九台
四九年			二〇、六一九台	一八、八〇〇台

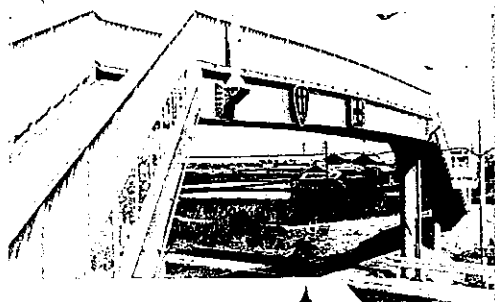
町内の国・県道の状況

(建設省交通状況調査より)  
(昭和四五年調べ)

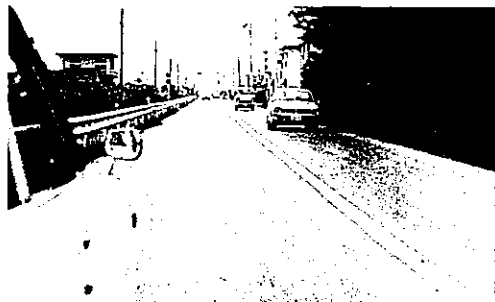
国・県道別	延長	改良率	舗装率
国道	三、二〇〇km	一〇〇%	一〇〇%
県道	八、四五三km	三四・一%	一〇〇%

2 県道

昭和二七年(二七)六月、新道路法が公布され、新時代の交通事情に即応して、新しい道路の改修と開設が始まった。昭和三四年(三四)に、県道の再



国道11号線にかかる歩道橋(人、自転車用)



長原港線(徳木野春日神社附近より東を望む)

編成が行われ、それまでの町内貫通の県道四線の認定を廃止、新たに各線が認定された。昭和三八年より航空隊に至る長原港線の舗装を完了。今切港の竣工とともに航空隊の正面から豊岡公共岸壁に至る臨港道路を拡張・改修。同四四年(四四)にはこれをさらに延長し、豊岡新土手を経て長原に至る改修が始まり、往年の長原一条線は面目を一新する。

(1) 県道の編成(大正二二年四月一日)

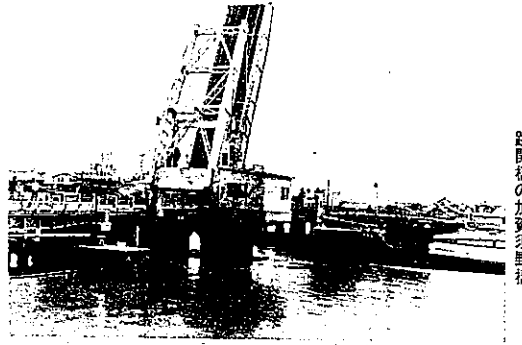
道路名	指定年月日	起点・終点
川崎・撫養線	大正二二・四・一	板東町川崎と撫養町
瀬戸・徳島線	大正二二・四・一	瀬戸町と徳島市
岡崎・徳島線	大正二二・四・一	撫養町岡崎と徳島市
長原一条線	大正二二・四・一	松茂町長原と一条町



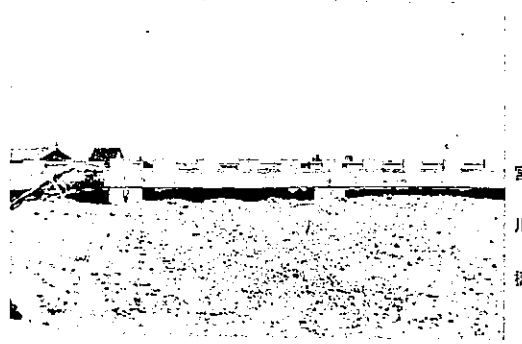
広島橋(鋼橋)



広島橋架橋の際の渡し舟(昭和47年)



陸開橋の加賀須野橋



宮川橋

7 加賀須野橋  
幅員 四・〇呎 橋長 一四九呎

戦後、自動車の通行も多くなり、また昭和二五年度からは、今切港の地方港湾指定と共に始まった港湾建設に伴って、上流への船舶の交通の便をよくする必要上、昭和三六年珍しい跳開橋が架設された。橋脚・待避所などの増強・補修が行われ、いわば新しい町の名所となって現在に至っている。近い将来においては国道一〇号線バイパスの建設に伴って上流に新加賀須野橋の架設が計画されている。

8 宮川橋

戦後、軍用道路が発展して国道一〇号線となり、主要交通路として出現したため、往年の長原一条線はその使命を終わり、昭和三四年に至り県道

の認定廃止とともに片隅に忘れられた存在となった。  
長原一条線上の宮川橋は昭和三八年(癸亥)三月二五日、前の木橋が現在のコンクリート橋に架け替えられた。その後、宮川そのものが埋め立てられ、ついには現況の川のない陸橋に姿を変えてしまった。  
幅員 三・六呎 橋長 二八呎

9 大津橋

昭和二八年、旧吉野川に架かっていた徳長橋に代わり、国道一〇号路線上に大津橋が架設された。

10 長岸小橋

大谷川に架かり、松茂町長岸と大津町大幸を結ぶこの小橋は、古くからドロ橋と呼ばれて両町を結ぶきずなとして親しまれてきたが、これまでの木橋では新しい車の通行には耐えられなくなり、昭和三十一年(癸亥)一〇月

四日、現在のコンクリート橋に架け替えられた。

幅員 二・七呎 橋長 一五・一呎

11 長原渡船

県下に数少なくなった渡船として残された長原渡船も戦後完全な真骨頂の管となり、無賃化し幾度かの架橋話しも立ち消え、相変わらず船の運航が続けられている。戦後一時は活況を呈したが、長原へのバスの乗り入れや自家用車の増加などに従って次第に利用が減少しつつある。

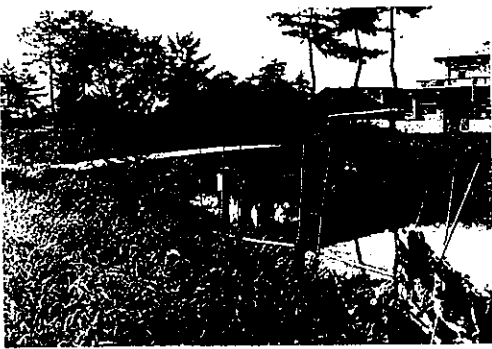
12 吉野川橋

吉野本川はその名称を改めて旧吉野川とし、別宮川を吉野川と改称したため、昭和二年二月、古川橋を改めて吉野川橋と呼称することになった。大正一四年一月起工。吉野川橋同取合道路及び鯛浜橋が竣工したので、

四 陸上交通

1 貨物輸送

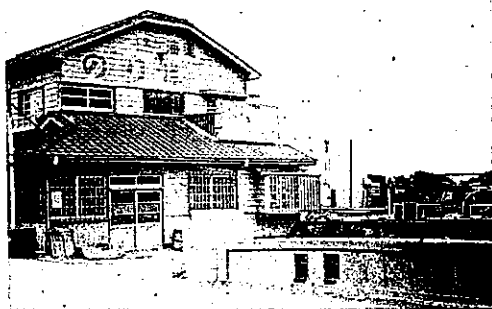
終戦後、自家用牛馬車で始まった貨物輸送は、昭和三五、六年ころより軽三輪貨物車の増加、ついで自動三輪車、さらに昭和四〇年ころよりの軽四輪貨物車の急増、耕運機、トラクターの普及。これらについては牛馬車・荷車・リヤカーなどの姿を開放した。町内における製造企業が増加、出荷農産物の飛躍的増大は、やがて町内に二つの運送会社を生んだ。昭和四一年(丙午)一月、柳生運送有限会社。昭和四二年一〇月、松茂運輸株式会社



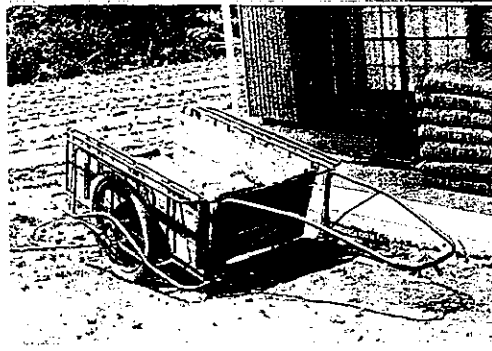
長岸小橋(長岸小橋松茂町長岸と大津町大幸を結ぶ通称ドロ橋)



大津橋



農家には特になじみ深い宝海運業船場



リヤカー

1 戦後の主な土木事業

施工期間	工事施工場所	工 事 概 要	備 考	所 轄
昭和三年度	国道二号線	アスファルト舗装(一部)コンクリート舗装	延長2,000m 幅員20m	国
〃〃〃〃〃〃	大手海岸	突堤工・護岸工・消波工	延長2,000m	国
〃〃〃〃〃〃	今切川	護岸工・波返工・根固工	延長1,000m	国
〃〃〃〃〃〃	旧吉野川	護岸工・波返工	延長2,000m	国
〃〃〃〃〃〃	豊岡芦田町	埋立工事	面積20,000㎡	国
〃〃〃〃〃〃	県道長原港線及び臨港道路	アスファルト舗装	延長2,000m	県
〃〃〃〃〃〃	丸須住宅団地造成工事	造成	面積20,000㎡	県
〃〃〃〃〃〃	県道川内大代線	道路改良	延長1,000m 幅員10m	県
〃〃〃〃〃〃	津志広島線	歩道アスファルト舗装	延長1,000m 幅員2m	県
〃〃〃〃〃〃	工業団地造成工事	造成	面積10,000㎡	県
〃〃〃〃〃〃	長岸一号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	向喜米一号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	長岸五二号線	歩道アスファルト舗装	延長1,000m	町
〃〃〃〃〃〃	国道一〇号線	改良・舗装	延長2,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	長岸一九号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	長岸一六号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	中喜米三八号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	向喜米三四の一〇号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	開拓二四号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	開拓六八号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	広島二一八号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	広島一八号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	広島三六号線	改良・舗装	延長1,000m 幅員10m	町
〃〃〃〃〃〃	旧吉野川河口堰建設	延長約1,200m(旧吉野川)、300m(今切川)の可動堰の新設。		町

2 旧吉野川河口せき建設事業

(1) 事業の概要

旧吉野川は吉野川下流部左岸(板野郡上板町)から分派し、さらに流路の途中で今切川と二分され、紀伊水道にそそぐ緩やかなこう配を持つ平地

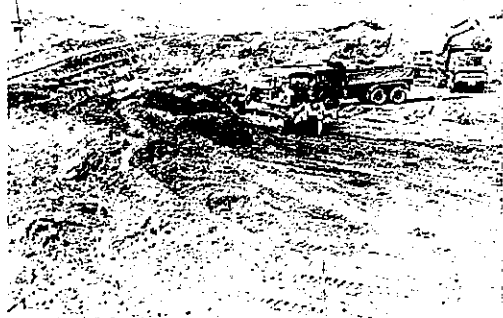
河川で、約四〇〇〇坪の殺倉地帯を擁している。この流域の大半は干潮部にあり、旧吉野川・今切川河口部に設けられた潮止め樋門により管理された水位により、塩害を防いでいるが、樋門の老朽化によって漏れ水が多くなり、十分な役目を果たしていないのが現状である。一方、本地域の都市化にともなって、工業用水・上水道用水の新規水需

要が強く要望されている。

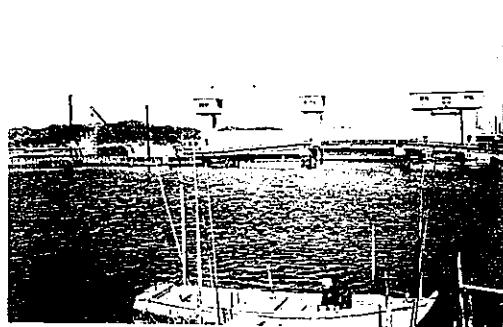


堤防復旧工事記念彰徳碑(長原)

旧吉野川河口せき計画は、このような問題に應ずるべく現潮止め樋門附近に河川を横断して延長約一九二呎(旧吉野川、二二〇呎(今切川)の可動せきを、新設するものである。(昭和四三年現在)



中喜来地区客土事業(畑地造成)



旧吉野川河口堰の建設進む(昭和49年)

## (2) 事業の効果

### ① 治水

旧吉野川・今切川の現潮止め樋門の敷高は、中小河川改良計画と比べると約二・五呎高い。故に河口せきの新設によって敷高を下げ、せき地点水位を計画高水位に合致されるものである。

### ② 塩害防止

現潮止め樋門は老朽化及び南海地震などによる地盤沈下によって潮止め効果が減少し、塩害が増加し、せき操作は非常に複雑となっている。そのため、河口せきを新設することにより潮止め効果を大きくして、塩害を受けている流域水田(松茂・川内八一〇)における稲作の増収を可能とする。

さらに、既設都市用水に対する塩害防止のための諸施設を新設・改築することなく、塩害を防止することができる。

### (3) 流域の概要

旧吉野川は、吉野川河口から一五呎さかのぼった板野郡上板町佐藤塚の左岸堤防に設けられた第十樋門から分派され、宮川内谷川をはじめ多くの支けい流を合わせて吉野川北岸の平野を東流し、北島町高房において今切川を分派し、蛇行して紀伊水道にそそぐ。旧吉野川の流域面積は二三四・〇六平方呎、流路延長二四・六七三呎で著しく蛇行し、河川こう配は上流部で二五〇〇分の一、中流部で八〇〇〇分の一であり、下流は松茂町中喜来の旧吉野川潮止め樋門のせき上げにより、川崎橋附近まで背水の影響を受けている。

また今切川の流路延長は一・三六四呎で、上流部は徳島市川内町久木の今切川潮止め樋門により旧吉野川と同様管理されている。

第十樋門から旧吉野川への分流量は、かんがい期約毎秒三〇〜四五立方呎前後、非かんがい期約毎秒二五〜四〇立方呎前後であり、現況ではこれより多ければ田面・畑地浸水をおこし、少なければ潮止め樋門の劣化および樋門操作の複雑などの影響を受けて塩害はさらに助長される。

## (4) 治水の現況

昭和四二年度(癸乙)中小河川旧吉野川改良事業を実施するまでは、本格的な改修はなく計画高水量も、毎秒七〇〇立方呎程度であったが宮川内谷川の改修および樋殿谷川・大代谷川の改良工事の進展と計画確率の向上により、今切川分派点においては、毎秒一六〇〇立方呎となった。これに伴い河道改修計画を再検討し河川拡中および河床掘削を実施することとした。この計画によると旧吉野川・今切川両潮止め樋門はせき柱多く、計画高水位が約一呎程度せき上げられるので撤去の要がある。

旧吉野川では、昭和二一年(癸癸)一二月の南海地震などによる地盤沈下で海岸線で約三〇〜八〇呎程度の沈下量が測定され、海面の相対的な上昇により水面こう配緩となり、流下能力は減退し、沿川各所にはん流を起こしやすい状態となって来ている。また、この沈下によりせきの潮止め効果が減少して来っており、樋門のきめこまかな操作が必要となった。

## (5) 利水の現況

### ① 農業用水

流域内耕地の面積は、水田約四、六〇〇畝、畑約一、八〇〇畝あり、このうち旧吉野川表流直接取水は、水田三、七〇四畝、畑二〇〇畝である。

これらは、第十樋門から流入した吉野川表流水を中流部以上は、直接機械揚水し、下流干潮部は派川を含め五ヶ所に設けられた潮止め樋門で内水をせき上げ、各所に取り入れ樋門を設け、いったん用水路に自然取り入れし、用水路内で揚水機により取水をする地域が多い。

今切川潮止め樋門は昭和二一年(癸乙)に附帯用水路と共に事業費三一〇、〇〇〇円をもって泉宮今切川沿岸農業・水利改善事業として施行された。その操作はかんがい期は常時閉鎖し、塩分の上昇に応じ一部樋門を開閉して除塩を行い、非かんが

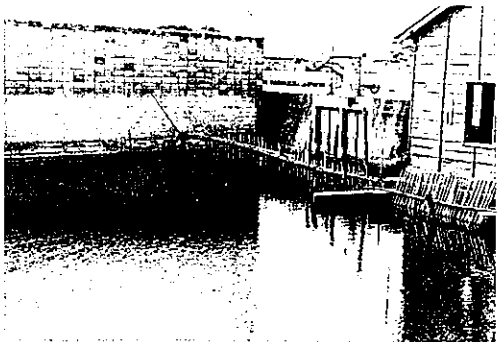
い期は上流都市用水事業者の要請期間に限り干満開閉を行っている。

旧吉野川潮止め樋門は、昭和二三年に泉宮旧吉野川沿岸農業・水利改良事業として事業費一三、五六八、二六六円をもって完成したもので、その操作は最近までかんがい期には五日間を単位として、三日間は取水取水のため閉鎖し、二日間は低湿地の排水のため開放という操作をくりかえしてきたが、潮の影響が著しいため、後の二日間は干満開閉の操作を行っている。非かんがい期は以前は常時開放していたが、近年都市用水事業者の要請により常時干満操作を行っている。

当該流域の中流部以下については、南海地震以後下水中の塩分濃度が高まり、表層土じょう水中の塩分濃度は、蒸発と毛管作用との繰返しによって次第に高められ、特に晴天が続くときは塩害による収穫皆無の田畑が増加する。

### ② 上水道用水

この地域の家庭用水は、南海地震前は上流部においては自由面地下水を



母川(豊岡)の排水施設



松茂町広域簡易水道水源池

下流部においては被圧地下水を利用していたが、最近においては、ほとんどの地域に上水道施設が普及している。旧吉野川流域の上水道施設は次の通りである。

市町村名	水道施設		水源種別	許可種別
	水人口	給水量 (平均日)		
鳴門市	10,000人	10,000m <sup>3</sup>	旧吉野川表流水	0-11k
松茂町	1,000人	1,000m <sup>3</sup>	旧吉野川表流水	0-01k
鳴門市大塚町	1,000人	1,000m <sup>3</sup>	旧吉野川表流水	0-01k
北島町	1,000人	1,000m <sup>3</sup>	旧吉野川表流水	0-01k
藍住町	1,000人	1,000m <sup>3</sup>	深井戸	0-01k
板野町	1,000人	1,000m <sup>3</sup>	深井戸	0-01k
徳島市川内町	10,000人	10,000m <sup>3</sup>	深井戸	0-01k
京神町	10,000人	10,000m <sup>3</sup>	深井戸	0-01k

③工業用水

旧吉野川流域の工業用水利用状況は次の通りである。

工業用水利用状況

会社名	取水河川	許可取水量 一日当 毎秒当	許可年月日	用途別	備考
東邦レーヨン	今切川	1.0	昭和三十三年	冷却用	冷却水
日清紡績	旧吉野川	2.0	昭和三十三年	冷却用	冷却水
大塚化学薬品	旧吉野川	1.0	昭和三十三年	冷却用	冷却水
東亜合成化学	今切川	1.0	昭和三十三年	冷却用	冷却水
徳島県工業用水	旧吉野川	1.0	昭和三十三年	工場給水	工業用水

(6) 旧吉野川河口堰

現況および計画諸元

位置(河口からの距離)	現況	計画	断面
四三	現況	計画	三・五三

川	管理水位	断面
水門部延長	T・P+0.6六七m	T・P+0.6六七m
門延長	四八m	一九三・三三
有効中	鋼製スラースゲート	鋼製ローラーゲート
延長	三六〇m	七・三三
越流堤	鋼製スラースゲート	鋼製ローラーゲート
延長	T・P+1.1三三三	三六〇m
天端高	T・P+1.1三三三	鋼製ローラーゲート
右岸	T・P+0.6六七m	T・P+1.1三三三
左岸	T・P+1.1三三三	T・P+1.1三三三
敷高	T・P+1.1三三三	T・P+1.1三三三
市	一八〇・〇〇m	T・P+1.1三三三

川	管理水位	断面
水門部延長	T・P+0.6六七m	T・P+1.1三三三
門延長	九〇m	一六八・三三
有効中	鋼製スラースゲート	鋼製ローラーゲート
延長	七・〇〇m	七・三三
越流堤	鋼製スラースゲート	鋼製ローラーゲート
延長	T・P+1.1三三三	三六〇m
天端高	T・P+1.1三三三	鋼製ローラーゲート
右岸	T・P+0.6六七m	T・P+1.1三三三
左岸	T・P+1.1三三三	T・P+1.1三三三
敷高	T・P+1.1三三三	T・P+1.1三三三
市	一八〇・〇〇m	T・P+1.1三三三

(7) 今切川河口堰

現況および計画諸元

位置(河口からの距離)	現況	計画	断面
八・三三	現況	計画	八・四三

(8) 事業の経過

事業	経過
閣議決定	昭和四五年 二月二五日
公示	同 年 二月二八日
公示	同 年 七月五日
公表	同 年 七月三〇日
認可申請	同 年 一〇月二〇日
認可	同 年 一〇月三十一日
着工	同 四六年 六月二日 (今切川河口堰)
同	同 四八年 六月一六日 (旧吉野川河口堰)
同	同 四九年 七月三十一日 (今切川河口堰)
竣工	同 五〇年 一〇月三十一日 (旧吉野川河口堰)

(以上2の項は「旧吉野川河口堰建設事業の概要」による)